

## 第 11 回全国バスマップサミット in 高松

カーフリーデー高松も同時開催



●撮影／林 博 7ページ関連記事

### ☆ ★活動報告★ ☆

8月21日 8月例会・理事会  
25日 福井市環境展  
29日 第2回CFD実行委員会  
9月15～16日 全国バスマップサミット  
16日  
モビリティウィーク&カーフリーデーふくい  
(スタート)  
17日 第3回CFD実行委員会  
9月例会・作業部会 (同時開催)

### ☆☆今後の予定☆☆

9月16日(火)～22日(日)  
モビリティウィーク パネル展 (AOSSA 4F)  
23日(火)  
第7回カーフリーデーふくい (AOSSA 1F)  
10月上旬 第4回CFD実行委員会 (予定)  
5日(土)～6日(日)  
全国まちづくり会議 (長岡市)  
6日(土) まちフェス (CFD ふくい関連行事)  
16日(水) 10月例会・理事会  
19日(土)～20日(日)  
第12回中部地区路面電車サミット (福井市)  
25日(金)～26日(土)  
LRT都市サミット (豊橋市)

## ゆうじんの部屋 書籍紹介

吉祥寺が『いま一番住みたい街』になった理由  
斉藤 徹 ふんしん出版 1400円+税

雑誌東京ウォーカーの人気投票で2004年度以降住みたい街1位をキープしている吉祥寺、その魅力はコンパクトシティが具現化されているところにある。しかも、大ビルを資本が支配しているのではなく、細切れの借地の店が多様な店舗を展開し、競争が絶えない状況が続いているのが特徴である。街のブランドが確立すると、また新たな試みを行う創業者がそこに店を出す。その良循環が確立しているのである。これを読んで、他の商店街がまねをしようと思っても難しい。でも本としては一読の価値がある。

東海市会員 美濃部 雄人 Minobe Yujin

# 福井における“ホジロバ”交通まちづくり

林 博



## ROBAがMAPを作るきっかけ

福井では、市民団体「ふくい路面電車とまちづくりの会」が、ホジロバ(歩自路バ)交通まちづくり活動の一環として、利用者の立場に立ったバス電車マップの自費出版に取り組み、バス電車事業者の案内所、福井や東京の書店において200円で販売している。

ROBAの活動開始直後に、郊外電車が人身事故で即日運行停止となり、電車の運行はかろうじて3セク経営により1年半後に存続されたが、一番の被害者は事業者よりも利用者だった。公共交通全体では、バスは利用者が減り減便や路線廃止など、悪循環が繰り返される危機的状況にあった。

そのため、電車バスの存続運動やLRT整備の提案と並行して、今あるバス電車の路線を有効活用して利用促進を図ることを重要と考え、マップ部会では、電車を降りてからの「まち歩きマップ」に続いて、バスマップの自主作成に着手した。バス電車の存在を認識してもらうために適切な情報、つまりバスがどこを走っていてどの施設なら利用できるのか、どこで乗り換えが可能なのか、利用できるような便数があるのかなど、運行実態の情報を提供することから始めることにした。現在の利用者に他の路線も利用してもらうために、今後利用してもらう人を増やすために、鉄道や電車のようにバス路線が記載された地図、すなわち「バス電車マップ」を自分たちの手で、使う側の視点で

作ろうというのがきっかけだったが、無謀な作戦でもあった。使い勝手のいいデザインのバス電車マップを作ることが、バス電車の使い方そのものを洗い直す大変な作業であり、それ自体がまちづくりであった。

## MAPづくりはまちづくり

### 1. 地図づくりは現地確認から

～作成目的にあわせた情報の収集～

一般公開している路線図は、バス停の順番はわかるが利用施設や場所がわからないなど、はじめての利用者にはとても利用できるものではなかった。そのため、事業者から詳細な情報の収集を試みたが、正確なバス路線管理図が事業者の手元に存在しないことが分かり、愕然とした。

そこで会員を集めて、あらためて路線図と住宅地図を持って、利用者の立場で市内全バス停を現地調査し、正確なものを作ることにした。ところが、バス停ポールが道の片側にしかないもの、交差点を挟んで両側に分かれているもの、事業者ごとにバス停名が違いかつ離れているもの、バス待ちをするスペースすらないもの、これでバスを利用しろというのは無理だというバス停がいっぱい発見された。しかし一方で、屋根(R)、バス待ちスペースの広いもの(O)、ベンチ(B)、バス案内システム(A)、さらには周辺住宅地図、時計など良好な環境のものもあり、これが「ROBA認定優良バス停」のできる元となった。この誉めて煽てる作戦は、利用者が求めているものを再確認することにもなり、その後の「『バスの駅』からのまちづくり」や、バス停改良につながったと考えている。



## 2. 行動に合わせてどう表記するか

～利用者に必要な情報の載せ方～

人は移動にあたりどのように公共交通を選択するか、そこにはいくつものハードルがある。バスマップがあっても、地図の上で自分のいる場所がわかり、目的となる施設や住所の情報が読み取れ、交通手段としてのバスや電車をその中から選択し、時間などが一致してはじめて利用してもらえる。

公共交通利用の手順	:
現在地の確認	
目的地の確認	
移動交通手段の選択	

移動手段として、圧倒的な強さを誇るクルマに対し、交通手段の選択肢のなかにバスが入り、利用しようという気を起こさせるために、どのような情報をどのように表記するか？

ROBAMAP の特徴の主要なものは、

- ・ 正確なバス停位置：目的地の最直近のバス停や駅を見つける。
- ・ 隣接の駅やバス停のグルーピング：往復の地域時刻表を WEB「ばすでんしゃねっと・ふくい」で提供
- ・ 使えるか判断できるバス路線情報：路線番号、運行便数による太さ。
- ・ 目的の主要公益施設の表記：中学、高校、病院、公園、案内所
- ・ 乗降前後の移動距離は 1 km グリッドで、ルートは基本図で。

### どんなスケールで表記するか

～利用者に見やすいスケールとは～

調査結果は 1/10,000 福井市都市基本図に書き込んだため、町丁目名、主要・大規模施設などの基本情報は細かに掲載されており、とても分かりやすかった。下図の新たな作成の必要性を感じないまま入稿時期を迎えてしまい、新たな下図を作成



している時間も費用もなく、そのまま下図として使うこととした。だが、見やすい最適なスケールとはどれくらいだろうか？ 1/10,000 調査記録図は東西 1 m 四方になり、そのままでは印刷するにも、持ち運ぶにも無理であった。やむなく、1/25,000 基本図をベースにして、なるべく大きくすることにした。

私が別に作っているオリエンテーリングマップ 3 .

(以下 OMAP) は世界共通の地図作成基準 ISOM で、競技者が走りながら地形認識するのに最適なスケールを決めており、ロング競技用は 1/15,000 地図としている。そこに、走りながら現地確認できる小さな枝沢や直径 1m の岩など、1/2,500 地図にもない特徴物を書き込んでいる。スピードに合わせ、ミドル競技は 1/10,000、スプリント競技は 1/5,000 を使用。

これを参考に、最終的に初版は市街地図 1/20,000、中心部 1/8,000 を採用し B2 サイズで発行した。現在はコスト面を考慮して縮小し、WEB 版も発行しているため縮尺ではなく距離スケールを使用している。



#### 4. 使い勝手の最適サイズは

出来上がりサイズは当初から利用対象者ごとに毎回2種類作り、初版では保険証サイズとカードサイズ。

試行錯誤の結果、第3版からは

持ち運びしやすい『ふくいのにりのりマップ』: 店頭販売・イベント景品用

ポケットサイズ、横9×縦12.6×厚さ0.7cm、厚紙表紙付き、時刻表メモ付き、B3両面2枚、6折×3折

配布しやすい『ふくいのにりのりミニマップ』: 大量配布・学校教材配布用

A4シート版8頁、A3両面2枚2折、持ち運び用には自分で折る。

#### 今後のマップづくりとまちづくり

「のにりのりマップ」も認知されるにしたがい、バス事業者案内所の大型マップ掲示板のデザインの注文が入ったり、バスの日のイベント景品に「のにりのりマップ」が採用されてまとめ買いがあったり、4月から校区外へ独立立ちする中学3年生へのMM資料として採用されたり、活用の幅が広がってきている。

私が競技者の立場でOMAPを作るという世界にいてもあり、利用者の立場からバスマップを作るということにすんなり入っていった。つまり、OMAPの場合、競技経験者が自ら作成して競技運営も行っており、有志が作り始めた専用のOCAD(最新はOCAD11)も、競技者ナイズされた世界共通の地図作成基準で作られている。そのため、外国選手が福井の地域大会に当日申込参加して優勝したこともある。

私の目指しているのは利用者だからこそ作れる、誰にでもわかる、使い勝手の良いマップだ。地図好きのあなたも、得意技術を活かして読んで楽しい、あなたのこだわりマップを作ってみませんか？

それがまちづくり。

(これは、日本地図センター発行の「地図中心」9月号に 林 博が寄稿した原稿です。)

報告：内田佳次

## □平成 25 年度福井市環境展に参加しました□

～8月25日（日）10:00～16:30 一乗谷あさくら水の駅にて～

平成 25 年 8 月 25 日福井市環境展が一乗谷あさくら水の駅で開催されました。ROBA は環境に関する行政主催のイベントには参加していますが、今年度は鯖江市の環境展に次いでの参加となります。

昨年は 11 月に福井市卸市場（大和田）で開催され、企業や団体によるプレゼンを中心に展開しましたが、今年度は「里地里山での自然とのふれあい」というサブタイトルが付けられ、自然観察会やビオトープ学習会など自然との体験型の内容となりました。

ROBA は恒例のパネル展での参加です。世界・日本の LRT とまちづくりの紹介を中心に今回は福井鉄道の FUKURAM の動画の上映や FUKURAM のパネルを多く展示して、これからの鉄道の可能性を感じていただこうという企画です。ROBA の参加者は畑副会長、清水事務局長、そして内田の 3 人。ROBA ブースには約 80 名の来場がありました。その都度まちなかを走る LRV の様子や LRT とまちづくりの様子をていねいに説明しました。やはり FUKURAM の画像にはほとんどの人が飛びついていました。

環境展全体の入数は確認できていませんが、朝倉氏遺跡でイベントがあり大勢の見物客があった割には閑散としていました。環境問題の市民の意識はまだまだでしょうか。



# “第1回、終着駅サミット in 城端” 開催予定

高岡のグルメ空手家？の善光です。こんにちは。ここで少し、イベントの紹介をさせていただきます。

北陸新幹線の金沢開業を目前にした今、ローカル線や地域の活性化を進めるため、『終着駅サミット in 城端』をJR城端線の城端駅周辺で開催する事になりました。サブタイトルを「ここから始まる物語・・・」とし、地域の鉄道や街の再生、活性化、観光戦略について考えます。今回は第1回とし、北陸3県の終着駅を持つ12の地域の方々に企画情報を発信しました。猫のタマ駅長で有名な和歌山電鐵の磯野専務、鉄道アーティストの小倉紗耶さん、氷見の本川市長などをお招きし、いろいろとお話を聞きたいと思いますので、観光を兼ねて、ぜひお越しいただければと思います。

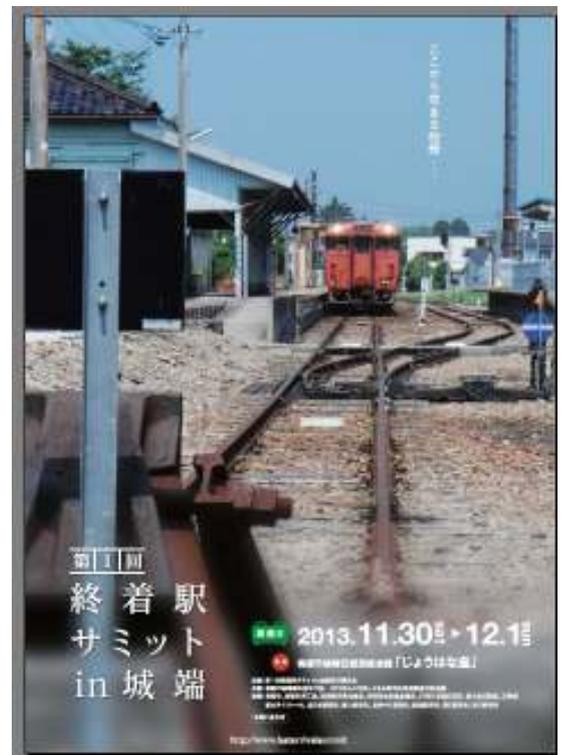
参加いただき宿泊を希望されます方は、この機会に世界遺産の相倉（あいのくら）合掌造りの民宿で一泊されるのはいかがでしょうか。いろりを囲み、ゆったりと過ごしてみませんか？ 数に限りがありますので、お早めに善光まで、ご連絡ください。2日目は、小京都、城端のまちめぐりなどを企画しております。

なお、このサミットは2回目以降、時期、内容、開催間隔など、特別にこだわる事なく自由な発想で、どこかで開催して頂ければと考えています。福井県でも、ぜひ企画くださいませ。

また、「終着駅」を題材にしたエッセイも募集します。最優秀の方は、交通費、宿泊費込で、サミットにご招待いたしますよ！

サミット詳細、エッセイの募集要項は、南砺市ホームページまで。終着駅サミットで検索すると出てきます。

それでは、たくさんの方のご参加、エッセイご応募を、お待ちしております。



## 第 11 回全国バスマップサミット in 高松に参加して (速報) 林 博

9月15日(日)

ウェルカムイベントはさすが地域性を考慮した素晴らしいメニューが用意された。

- ・1. 直島めぐり(岡山からバス、船を使って高松入り：岡山集合)
- ・2. ことでん仏生山車庫・工場見学会(鉄ちゃんにも大サービス)
- ・3. 電車・バスでうどんツアー(さすがうどん県香川でのイベント)

でも、私は、平賀源内とうどんというセルフメニューで大雨の中、気まま旅を楽しんだ。

13:30~17:30 シンポジウム 会場：高松市丸亀町商店街 丸亀町レッツホール(丸亀町壱番街東館 4F)

◦基調講演「つなげる公共交通～スローモビリティ～」土井健司氏(大阪大学大学院教授)

ロンドンでは、道路空間においてモビリティに優先順位を付け、車椅子・ベビーカー ひと 自転車 バス タクシー トラック 乗用車(まさに「ホジロバ」ですね)、これらを総合的にデザインして、ロンドンの自転車革命といわれており、上海などの都市もこの方向で徹底し始めている。

◦講演(1)「都市のスマートグロースを支える交通結節点とバスマップについて」牧野浩志氏(中日本高速道路(株)) 横川駅前への路面電車乗入に関わり、10年後の資料を基に交通結節点整備の効果について報告、役立つ具体的資料だ。RACDAのバスマップにも関わり、福井県にもおられたとのこと。

◦講演(2)「つなげる公共交通なるほどなあ事例紹介」平原大樹氏(交通アドバイザー)楽しい報告でした。

◦研究発表(1)「ライフサイクルステージに着目した自動車利用可否による外出行動への影響分析」

宮崎耕輔氏(香川高専准教授) 6か月以上クルマが使えなくなったときに最も支障がある世代を調査し、その結果明らかになったのは子育て中の世代であり、そこへの外出支援が重要であると報告。

◦そのほか研究発表2題 香川大学工学部大学院生2名、海外事例紹介「台湾・台南市における公共交通再編の取り組み」頼均章氏(大阪大学工学部、留学生)など、今回は学生の発表が多かった。

19:00~21:00 交流会 大雨の中、会場を高松国際ホテルに移動して開催、参加者約70名、

◦あいさつ 鈴木文彦氏(交通ジャーナリスト)、◦バスマップ開催・作成団体のPRタイム、開催順でROB Aも、2番目に松原さんと二人で報告。もちろん大雨の中2次会へ、瓦町駅前で開催。

9月16日(月・祝) 会場：高松市丸亀町商店街 丸亀町レッツホール(丸亀町壱番街東館 4F)

10:00~11:30 分科会 わたしは、第二分科会に参加

◦第一分科会 新型公共交通機関あれこれ □座長 岡将男氏(RACDA)

◦第二分科会 高齢化社会に求められる地域交通について □座長 宮崎耕輔氏(香川高専)

◦第三分科会 観光に活かすバスマップづくり □座長 田中隆一氏(プロジェクトゆうあい)

11:30~12:30 部会発表&総括： 全国バスマップサミット実行委員会 代表・岡将男氏

つなげていくのは公共交通だけでなく、このサミットのように人もつなげていくことが大事

13:00~13:30 幹事会：次回開催は関西(姫路&京都)2015年2月ごろ、次々回候補：南三陸  
閉会后～カーフリーデー高松 ぶらり見て歩き

高松市中心部の菊池寛通り、美術館通りを歩行者天国にした『第6回カーフリーデー高松』(四国統一公共交通利用促進キャンペーン都市イベント高松会場)を見学。「"ぐるっと高松"公共交通を育てる会」も出展。イルカのことちゃん「高松特別ゆめ大使」をはじめ、10数名のゆるキャラが参加して会場を盛り上げていました。一番人気はここでもミニ電車体験：SL(蒸気付)&電車の2台運行していましたが、大行列でした。行政の公共交通ブースもあり、自転車シミュレーターも、琴電グッズも多数出展。



作/漆 嵯 耕次

## ケントリーくんのあれこれ日記 Part 9

東日本大震災から2年半の歳月が経ちましたが、未だに仮設住宅や避難先で不自由な生活を強いられている方が多く、大変心が痛みます。被災地の復興は、まだまだ道半ばといったところですが、NHKの連続テレビ小説「あまちゃん」のモデルになった岩手県久慈市では、観光客が急増しています。これが一過性のブームに終わらず、地域の発展に寄与し続けるよう願うばかりです。

なお、ロケ地紹介コーナーを、下記いわて三陸観光復興プラットフォームのWEBページで見ることができます。

袖が浜編 <http://sanriku-trip.jp/archives/4036/>

北三陸駅編 <http://sanriku-trip.jp/archives/4076/>

ところで、ドラマでは北三陸鉄道の車両を電車と言っているシーンが多く、耳障りで気になっていましたが、駅長役の大吉さんは、ディーゼルカーであることを時折強調していました。地震直後にトンネル内で列車に急ブレーキをかけて間一髪助かるシーンや、地震からわずか5日後に徐行(運賃無料)で運行再開するシーンが三陸鉄道北リアス線での実話を元に描かれており、予想していた展開とはいえ感激しました。

BSプレミアムで毎朝見てから出勤するのを日課にしていたのですが、まもなく最終回を迎えることになり、一抹の寂しさを感じています。北三陸鉄道を活用して街の活性化に取り組むシーンも多く取り上げられていました。見逃された方は、ぜひ総集編でチェックしてみてください。

### 編集後記・・・編集委員より一言

内田(発行責任者)

「竜巻怖いですね!事前の対策と言うけどそんなのできない。火災保険に入るのが対策になりますよ。今一度ご確認を!」

林(変集長)

「台風で収穫前の田んぼが土砂で。泥水に浮かぶリンゴ。廃棄される若狭塗箸。心が痛みます」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail: [roba@mbh.nifty.com](mailto:roba@mbh.nifty.com)

URL: <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>